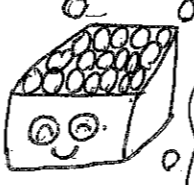


2がつの小森のこども園だよ！

2月11日

1月もあと1週間あつたとなり、もう2月になりますねー。
 毎年、年が明けると、年度末までがとて早く感じられ、3月まで
 すぎすぎていくのが、この冬の季節の残り、2月の寒さも、
 冬ならではのあつても、あつたいなから一日一日をすこし楽しんでい
 たいです。年明けの1月のめでたい月に嬉しく、ありがたかったです。



成人式の日、うちの第1号卒園生が晴れの姿をみせにきてくれました。
 その後のメールで、「色々あった20年ですが、小森園で過ごして1年が
 私にとって人生の糧になっています。これからもよろしく願っています。」とありました。
 その子は、相談を受け、他園から転園してきて、たった一年の保育生活の
 ですが、その子自身が、そままで思ってくれているのは、私にとって、すごく力になります。

◎若宮神社へ初詣に行き、帰りに田んぼのあぜ道を通りながら
 七草を探し歩きました。田んぼの1ヶ所のところ、稲刈りが済んでおらず、
 そのまま稲が残っていたところがあり、そこで、さがる米をみんぱ
 じ、刈り取ったお米もいただきました。稲をまじまじとみる機会はな
 かなかないので、新年始めにとてもいいスタートになりました。
 この日は、冬休みで卒園生の1年生と6年生も来園されたので、
 6年生の子が「先生、米かじ、みてもいい？」というので、私が小森園も
 生米をたべてたことを思い出、「はいはい、おなかをすけて、ちよ
 はいいよ」とうて、すこかじっていたら子ども達でした。これ、
 第一声が「あまーい」といって、「あつたあつた、そのお米の味を
 かんじ、あまーいと感じている、それこそいいことと先生は思うよ」と
 話したところでした。結局七草は、はなばらと、うちの庭でつんぱ
 りしよけの似たような草が、たくさんあるので、その違いを教えると、



し、かりとみで観察し、次々と、あちこちからつんぱ
 きていた子ども達でした。これ、うちは、「のびるもつちん
 出さるる」でこれも刈出し、つちんになりませ
 せ、かく子ども達がつんぱもつちん、のびるは、ゆわい
 のびる、ごごご、これマヨネーズで食べたらうまいよ。
 あつたう間に、おひしゅ〜、と、て、食べた
 みんぱでした。七草の、一つ一つもみせて、お前お
 たいすも刈りして、七草粥をみんぱで味わう食べたい
 7日のスタートの日になりました。

どんどや
 14日が休日でつちん、一日お休み、15日にどんどや
 を行きました。このおじいちゃん、たきもの
 をつちん、何度も届けてくださって、うちは火を
 おこしている活動も多かったので、これも助かっています。
 そのたきものを初めて使わせていただきました。どんどやの
 も、そのあつたお米もとてもいい感じにでき、おもちや
 いもなど、やいたものも、より一層おいしくやき
 上がり、おいしかったですよ〜。
 ゆいは、年長になりつちん、この年中さんの仕上げの
 時期に、火おこしのことも伝授して、年長さんにつな
 げていきたいと思ひ、木ぎれ木の枝、葉集めから
 してもらいました。このも、そのゆいをおひかけて、
 外にやいたおひ、上から下へとつながるつちん、この
 みえたあつたもありました。

たきものを
 おくも
 修理して
 いただきます。

珍百景という内容のテレビ番組の中で、自給自足の生活を送っている家族のことがあっていました。(みられた方も多かったです...)

6人の子育てをされていて、一番上が小学5年生で、小3、5才、3才、2才、1才、ほ?。

おおみえかの年越しうどんは、自家製の小麦粉で作られたうどん。おびうにのおもちももち米から。クリスマスの日料理も、鳥の丸焼きは、家で飼っている鶏を長男の小学5年生の男の子が主になって沸騰している湯にサッとする場面ありで、子ども達で毛ぬきをけし...。

風呂も五右衛門風呂で、たきつけをしていのは、三男で5才の男の子でした。風呂の中で、その子が「熱すぎた〜」と苦笑い言っている表情も印象的でした。家には、電気は通っているけど、電化製品は使っていないので、暖をとるのも、薪ストーブと炭を入れた二つで、外で、たき火を囲んでの食事...。他にもいろんな場面ありで、感心する映像でした。その子ども達のお父さんが「日でも、実体験で...」と、「贅沢な子育てだ」と思っています」といわれていました。

レポーターの方が「テレビや、ゲームをしたいとか思わないのか」というようなことを言われていましたが、その小学5年生の子も、男の子といは字していました。家族みんな洗ったものを干したり入れこめてお風呂に、米とぎして、くじで、火おこして炊いたり...と、忙しい時に両親を手伝い、家族で協力しあって、日々の一つ一つの生活を、されているのを見て、正に生きる力が、積み重ねられていく子ども達で、この時代に、その生活を、選ばれる、実践されている、すごいと、私は思いました。しかも、「贅沢な子育て」と、...

このように子育てを「贅沢」ととらえる、また、違うふうにとらえるか... いろいろな意見があると思いますが、私は、自分の子育てにまた、刺激をもらった番組でした。



小学の子が
おふくもて
下の子とおふくた
ておているのも
印象的...



魚の丸干し作り (2月も2回目誌)

ゆいといこのは、やわらかくて、やりやすいいわしの腹だし、さらしをしてのゆいの丸干し作りをしました。(ちなみに卒園生は、あじの腹だし(8才) さらし、せうじをきりながら、20才で)

手を使うことを重要視して保育を(というので、これもカリキュラムに入れますが、いつもおしゃべりしまわりの子ども達も(一人と無言にたづねの集中力と、臭い、感触など五感の成長と、この冬時期、寒さ、風を利用した自然を意識し、自然のありがたさも感じてもらったりと、たぶん、ねえ、あります。ゆいといこの、卒園生と、3才の子の年齢においての手先の動きも、卒園生の取り組みとなりました。ゆいといこの去年のことも見てみて、2回目の取り組みで、再挑戦で、手つきも違いますが、みられました。これは初挑戦で、「おしゃべりいかにする〜」と、おしゃべりしたか、あじは、一人でできるように促すと、このなりに魚(いわし)をみわけて、やりました。2才児のすごさ、大きくなった卒園生は、はじめに一回説明をしたあじは、丁寧に内臓、さらしを取り除き、せうじもその部分をきりにするとり作業(てい、さずか、あなたちと感心したとこでした。この日は、6年生、4年生、1年生がトライにされました。(指先をちぎって切、した子どもは、いけ、このゆいといこは、たぶん、あじは、とった返しができるようになって、たぶん、な、おしゃべりと思う場面もありました。)

縁側には、園児のゆいといこのゆいの丸干しと、卒園生のあじの丸干しが、冬の風はゆいといこから下へ、吹きますよ〜。ちぎったあじは、...